平成 27 年 11 月 21 日(土)

伊勢原市教育委員会主催平成 27 年度秋期いせはら歴史ふれあいウォーク

［坪ノ内・栗原・三ノ宮地区の歴史と文化遺産をめぐる］

No.	史跡・文化財等
―	集合場所・時間 伊勢原駅北口階段下 8:20 分 (WC)
バス	8:33 分発「鶴巻温泉駅行」バスに乗車して「桜坂バス停」にて下車
①	比々多公民館「開会場所」(WC)
②	近藤如水の墓
③	長福寺観音堂
④	宮ノ脇の地神塔
⑤	登尾山古墳
⑥	塔の山緑地公園パークセンター ＊昼食休憩(WC)
⑦	萬松寺と子の権現堂
⑧	保国寺の地蔵堂(WC)
⑨	埒面古墳
⑩	三之宮比々多神社と郷土資料館(WC)
⑪	三の宮バス停(解散場所)

［歩行距離(水平・概測値)］

＊点線は「登尾山古墳」を迂回して歩く班のコースである。

午前中：2.7km

午　後：2.8km

合　計：5.5km

路傍の石造物の中から	
No.	種　　別
a	観音谷戸の句碑
b	下中島の庚申塔
c	上入塔の双体道祖神
d	下入塔の「子の聖」座禅石
e	中栗原の稲荷石祠と稲荷神像

Ⅰ　日時

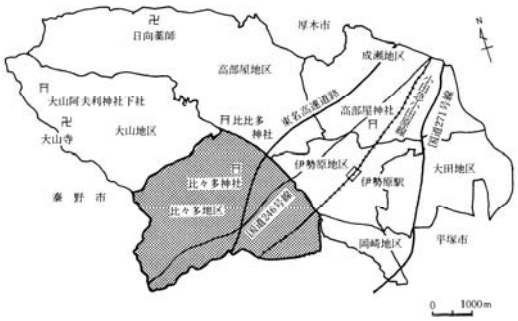
平成 27 年 11 月 21 日(土)午前 8 時 20 分～午後 3 時 50 分

Ⅱ　コース

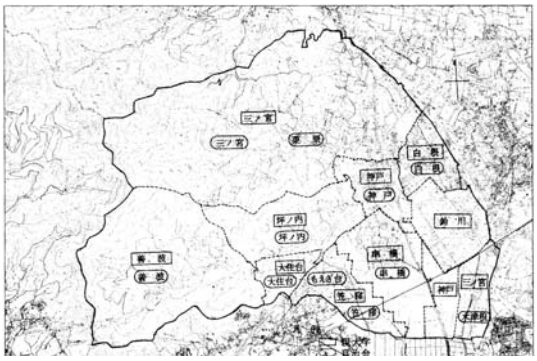
伊勢原駅北口バス停→桜坂バス停→比々多公民館(受付) →近藤如水の墓→長福寺の観音堂→宮ノ脇の地神塔→登尾山古墳→塔の山緑地公園パークセンター(昼食) →萬松寺の子の権現堂→保国寺の地蔵堂→埒面古墳→三之宮神社郷土博物館→三の宮バス停(解散)。

Ⅲ　地理

伊勢原市の南西部に位置し、西は秦野市、南は平塚市と境を接している。地勢は西北が高く、東南にいくにしたがって低くなっている。西北は丹沢山塊の大山(1251.7m)の支脈である高取山や聖峯などによって秦野市と画され、それに連なる台地・丘陵地から成りたっている。そこに発する栗原川や善波川が、地区の東南において大山に源を発する鈴川に合流している。かつて地区内をほぼ東北から西南にかけて旧矢倉沢往還が通り、これと交わるように幾条かの大山街道が通っていた。



［比々多地区の位置］



［比々多地区全体図］

Ⅳ　江戸時代の村々の様子

この地区の村々の近世は「新編相模国風土記稿」によって江戸時代後期の様相を知ることができる。

［坪之内村］ 戸数 47 戸。村名の由来は古代条里制の遺名からともいわれている。矢倉沢往還(波多野道と記す)が東西に通るほか、ここから小田原道も分かれていた。神社には、鎮守の若宮八幡宮(例祭 3 月 15 日)、神明社、熊野社、山王社、風神社、疱瘡神社などがあった。寺院には、養国院(曹洞宗)、長福寺(古義真言宗)、福昌院(曹洞宗)があった。

［三之宮村］戸数 84 戸。村名の由来は三宮明神社鎮座の地ゆえという。大山道が 2 条と荻野道が通っていた。鎮守の三宮明神社は相模国の三ノ宮であり、式内社と伝えられる。例祭は 5 月 5 日。このほか、山神社、牛頭天王社(ごずてんのうしゃ)、吾妻社、金山社、愛宕社、山王社、稲荷社があった。寺院には、能満寺(臨済宗)、高岳院(臨済宗)、泉龍寺(古義真言宗)、浄業寺(黄檗宗)のほか、観音堂、阿弥陀堂などもあった。

［栗 原 村］ 戸数 39 戸。三之宮村の枝郷かといわれている。神社には、神明社、稲荷社、八幡宮、牛頭天王社、秋葉社、山神社などのほか、聖峯には子聖権現(ねのひじりごんげん)が祀られていた。寺院には、保国寺(曹洞宗)、萬松寺(曹洞宗)、法泉寺(日蓮宗)、地蔵堂などがあった。

Ⅴ　史跡・文化財のあらまし

1　近藤如水の墓

比々多公民館前八幡神社入口の中谷戸岡の台地上に、郷土の画家近藤如水の筆と硯を彫りつけた墓がある。如水は文化元年(1804)に坪之内村に生まれた。幼名を金吾といい、15歳の頃江戸に出て本格的に画技を学んだ。その後、諸国を遍歴して絵画の道を究め、天保15年(1844)に故郷中谷戸岡に帰り、文久2年(1862)病のため59歳で生涯を終えた。如水の作になる絵は「八方睨の龍」が長福寺観音堂に、「うずらと粟穂」が如水の生家近藤家にある。このほか厚木市金田妙純寺、同川入の名主佐野家、海老名市有鹿神社や静岡県興津の瑞雲院の観音堂などに残されているという。

2　長福寺の観音堂

新編相模国風土記稿坪之内村の条に「岩松山観音院と号す、古義真言宗、古は大畑村金剛頂寺末、開山宥譽承応3年(1654)11月12日卒、本尊大日。観音堂、十一面観音 長3尺6寸5分(約1m18㎝)、串橋村字に観音河原といえるは、此本尊出現の地なりと云伝ふ」等とある。観音堂は単層朱塗り銅版葺きの屋根に、二重扇垂木造り5間(約9m) 四方の四面に十二支の彫刻を配し、堂内の天井・壁面には、地元出身の画家近藤如水の筆になる龍・天女・獅子などの図が描かれている。従来から秘仏として堂内厨子に安置されてきた観音菩薩像は、伊勢原市が昭和55年度～平成9年度にかけて実施した仏像等彫刻調査によると「寄木造り・彫眼・等身大の十一面観世音菩薩坐像」で江戸時代前期の作とされている。

3　宮ノ脇の地神塔

観音谷戸を見下ろす台地上に、道祖神塔などと並んで地神塔が建っている。自然石を用い堂々とした文字で「ᄒᆡᆯ地神齋 嘉永七載(1854)甲寅満月吉旦 當谷講中」と刻す。地神は百姓の神、農家の神とされ県内の農村では春と秋には地神講を行なっていた。春の講は作物の豊穣を願い、秋の講は豊穣を感謝する祭であったといわれる。かつてこの集落でも、春分と秋分の最も近い戊の日(『社日』といい、生れた土地の守護神を祀る日)に、持ち回りの家を神の宿として集まり飲食を共にしたという。当集落では、その際に用いる地神講用の什器一式が整えられていて、当番宅へ順々に受け渡しされていたことも伝わるが、講は太平洋戦争中に廃止されたという。(ᄒᆡᆯヒリ:「梵字で地天のこと」)

4　登尾山古墳

長福寺後方、通称登尾山から東の方へ延びる尾根の中程にある。昭和 35 年、地元の人々が農道を造っている最中に発見された。墳形は明らかではないが、半地下式の横穴式石室墳である。出土遺物は倣製三角縁鋸歯文鏡、馬具、刀子、直刀、鐔、鉄鏃、玉類、銅製脚付蓋鋺(高台蓋付)、須恵器、土師器、などのほか、家形埴輪、人物埴輪、円筒埴輪の破片があった。これらの遺物は三之宮郷土博物館に保管されている。この古墳が注目されるのは、副葬品の内容と装飾大刀、金銅製の馬具、銅鋺、銅鏡という組み合わせから、ここに葬られた人物を、相模一帯を治めた最高権力者ではないかということを推測できる点にある。古墳の年代については、6 世紀後半から 7 世紀初頭の頃と考えられている。

5　萬松寺の子の権現堂

曹洞宗の寺院で大聖山萬松寺と号する。寺伝によると、貞観年間のはじめ頃(859年頃)、

子の聖（紀州天野郷の阿字の長者の一子。生年・月・日・時刻までが子であったことによる呼び名）は諸国を行脚する途中、この地に庵を結び、土地の開発と仏法教化に力を尽くしたという。そのため、人々は「子の権現」と呼び崇めた。子の権現が出羽に去った後、律師萬松永岳がその庵跡に一宇を建て萬松寺としたと伝えられる。また、寺に伝わる文書によると、天正2年（1574）小田原北条氏臣下の遠山新四郎康英は、萬松寺を再興し主君北条氏康の位牌所とした。康英は、父康光と共に対上杉氏外交官として重きをなしたとされる人物である。氏康の位牌は住時のまま残されているという。

6 保国寺の地蔵堂

保国寺の伝承によると、11 世孝戒は寛延年間始めに（1748 年頃）金銅丈六大地蔵尊と小身地蔵尊百体造立の大願を立て、10 数年後の宝暦13 年（1763）弟子喝音とこれを成就したという（造立の年代に諸説ある）。金銅丈六大地蔵尊は同寺地蔵堂に安置され、小身百体地蔵尊は近郷百ヶ村に迎えられて子育て地蔵・回り地蔵として各地域で巡行された。現在地蔵堂に安置されている丈六地蔵菩薩坐像は、明治初年の廃仏希釈により破却された金銅仏ではなく、その「雛形（鋳造のための原型）」を利用した寄木造りの木造仏で、孝戒はこの原型に彩色を施し、矢倉沢往還沿いの猪俣家前に安置したという。その後の変遷は不明であるが、昭和 56 年に修理がなされ現在の地蔵堂に安置されたという。

7 埒面古墳

この古墳は、現在の恵泉女学園大学の用地内に位置する。昭和 41 年校舎建設の際に発見され、大型の横穴式石室の調査によって銀装大刀、金銅製の馬具、銅鏡、鉄鏃などが出土した。また、平成 12 年度からは校舎建替えに伴う調査が実施され、墳丘の一部と周溝が確認された。その結果、埒面古墳は直系 40mの規模を有する円墳で、石室の大きさや副葬品の内容などから、7 世紀頃相模（『さがむ』相模の古称）に有数の権力を有した首長の墓と考えられている。遺跡から出土した遺物は、三之宮郷土博物館に保管されている。

8 三之宮比々多神社と郷土博物館

三之宮比々多神社は延喜式内社相模 13 座の中の 1 社といわれ、市内の延喜式内社はこの他に大山阿不利神社、高部屋神社がある。祭神は国土創造の神である豊斟野尊と酒造りの神である大酒解神・小酒解神を合祀している。4 月 22 日に行われる例祭は近在きっての祭典行事で、神輿や 3 台の山車が氏子区域を巡行するという。また、植木市を始めとする 200 軒もの露店が出て大勢の人で賑わう。郷土博物館は、先代の永井参治宮司が私財を投じて建てられたもので、伊勢原の歴史や文化を知るための貴重な遺物や古文書、出土品などが多数納められており、市域を代表する博物館として重要な役割を果たしている。

［主要引用等文献］1968 うもれ起： うもれ起会（伊勢原町企画室）、1977 神奈川県史各論編 5 民俗：神奈川県調査部県史編集室、1981 相模の石仏：村松雄介、1992 伊勢原の民俗 5-比々多地区-：伊勢原市史編集委員会、1995 伊勢原市史通史編先史・古代・中世：伊勢原市史編集委員会、1998 新編相模国風土記稿：雄山閣、2000 伊勢原の仏像： 伊勢原市教育委員会、2001 いせはら史跡と文化財のまち：伊勢原市教育委員会。

資料作成［いせはら歴史・文化財ふれあいの会］